

深掘り！ 浮世絵の見方

2023年12月1日（金）—12月24日（日）



浮世絵を鑑賞する際、皆さんはどのような点に注目するでしょうか？

浮世絵の多くは木版画として作られていますので、浮世絵師の筆づかいはもちろん重要ですが、木の板を彫る彫師や、紙に絵具を摺る摺師たちの卓越したテクニックを知っておくと、作品をより深く堪能することができます。また、作品の保存状態や、絵の中に記されている文字など、制作の裏側が見えてくる鑑賞の「ツボ」がいくつもあります。

本展では、まずは押さえておきたい初歩的な視点から、浮世絵マニア向けのディープな視点まで、さまざまな浮世絵の見方を深掘りします。浮世絵をもっと深く楽しみたいという方、ぜひご覧ください。

本展の見どころ

①北斎のグレート・ウェーブを深掘り！

世界で最も有名な浮世絵である葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」。波の動きを捉えた北斎の観察眼はもちろん、鮮やかな青い絵具や、その絵具を紙に摺る摺師のテクニックなど、浮世絵を鑑賞する上での見どころが詰まっています。「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を筆頭に、北斎や広重、歌麿たちの名品の「ワザ」を深掘りします。

②鑑識眼が試される？摺りの違いを深掘り！

浮世絵の多くは木版画で出来ていますので、同じ作品がたくさん存在していることとなります。しかし、摺りの早いものと遅いものとを比べてみると、色や形など、同じ作品でも細かいところにさまざまな違いがあります。摺りによる細かな違いを深掘りします。

③マニアックな知識を深掘り！

絵の隅にある小さな余白。絵の中に記された謎の記号。言われても気がつかないようなわずかな場所に、浮世絵の制作の背景や保存状態が分かるような手がかりが隠されています。浮世絵に詳しい方でもあまり意識することのない、浮世絵のマニアックな知識を深掘りします。



(1) 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」



(2) 歌川広重「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」



(3) 歌川広重「木曾海道六拾九次之内 須原」



(4) 歌川広重「木曾海道六拾九次之内 須原」
※摺りによって線や色が異なる



(5) 歌川広重「名所江戸百景 亀戸天神境内」



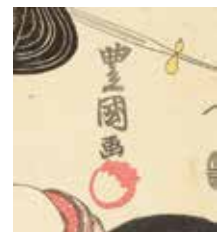
(6) 歌川広重「名所江戸百景 亀戸天神境内」
※橋の下の空の色を修正



(7) 豊原国周「東京花国周漫画 四 中村芝翫 民谷伊右衛門」
※見当（摺りの目印）を示す小さな余白



(8) 歌川豊国「美人夏の富士」
※歌川派の絵師たちに受け継がれるマーク





(9) 喜多川歌麿「若那屋内 しら玉」
※版元・蔦屋重三郎が刊行したことを示す版元印



(10) 喜多川歌麿「青楼七小町 若那屋内 白露」
※浮世絵を海外に輸出した「わか井のおやぢ」こと若井兼三郎の所蔵印



※2024年1月ー3月は改修工事のため休館します。

タイトル 深掘り！ 浮世絵の見方

英タイトル Introduction to Ukiyo-e

会 期 2023年12月1日（金）～12月24日（日）

開館時間 午前10時30分～午後5時30分（入館5時まで）

休 館 日 月曜日

入 館 料 一般 1000円 大高生 700円 中学生以下無料

ア ク セ ス JR山手線 原宿駅（表参道口）より徒歩5分

東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅（5番出口）より徒歩3分

問 合 せ 050-5541-8600（ハローダイヤル）

公式サイト <http://www.ukiyoe-ota-muse.jp/>

公式X(Twitter) @ukiyoeota

会場・主催 太田記念美術館 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-10-10

TEL 03-3403-0880 FAX 03-3470-5994

E-mail om@ukiyoe-ota-muse.jp

展示担当：日野原健司 広報担当：金塚さくら



太田記念美術館
公式サイト



画像申請・取材
の申込はこちら